

讚美歌21 230

マタイ25:1-13

1 「起きよ」と呼ぶ声、「めざめよ、エルサレム」。

ものみら叫びて、

闇夜をつらぬき、ひびきわたる声よ。

「備えよ、おとめら」。

いざ、ともし火 高くかかげ ハレルヤ。

花婿迎えよ、祝いの宴に。

2 めざめしおとめら 喜びてそなえぬ、

ものみらの声に。

栄えに輝く 花婿なる主イエス

いまこそ来ましぬ。

人となりし 神のみ子よ、ホサナ。

聖なる宴に よろこびあずからん。

3 「グロリア」とたたえよ、みつかいらとともに、

たてごとかなでて。

主の御座めぐりて 集う聖徒たちと

うたごえあわせて。

未だ知らぬ この喜び、ハレルヤ。

われらもうたもて ほめたたえよ、アーメン。

T/M Philipp Nicolai

“Wachet auf,” ruft uns die Stimme

Der Wächter sehr hoch auf der Zinne,

“Wach auf du Stadt Jerusalem!

Mitternacht heiß diese Stunde!”

Sie rufen uns mit hellem Munde:

“Wo seid ihr klugen Jungfrauen?

Wohlauf, der Bräutigam kommt,

Steht auf, die Lampen nehmt!

Halleluja!

Macht euch bereit zur Hochzeitsfreud;

Ihr müset ihm entgegengehen!”

Zion hört die Wächter singen,

Das Herz tut ihr vor Freuden springen,

Sie wachet und steht eilend auf.

Ihr Freund kommt vom Himmel prächtig,

Von Gnaden stark, von Wahrheit mächtig;

Ihr Licht wird hell, ihr Stern geht auf.

Nun komm, du werthe Kron,

Herr Jesu, Gottes Sohn!

Hosianna!

Wir folgen all zum Freudensaal

Und halten mit das Abendmahl.

Gloria sei dir gesungen

Mit Menschen- und mit Engelzungen,

Mit Harfen und mit Zimbeln schön.

Von zwölf Perlen sind die Tore

An deiner Stadt, wir stehn im Chore

Der Engel hoch um deinen Thron.

Kein Aug hat je gespürt,

Kein Ohr hat mehr gehört

Solche Freude.

Des jauchzen wir und singen dir

Das Halleluja für und für.

コリント I 第13章1-3節 「・・・愛がないなら、私は無に等しいのです。・・・愛がなければ、何の役にもたちません。」（新改訳版）

経済学部の教員有志が、「経済と倫理」を取り上げ、学生の皆さんとチャペルアワーに、共に考えるようになったきっかけは、2008年の世界経済危機（リーマン・ショック）でした。

経済学において、企業の利益、あるいは個人の効用の最大化は、本来、経済合理性の追求に関する仮説に過ぎませんでした。しかし、現実の経済において、こうした功利主義的な考え方が次第に行動の規範と化し、知らず知らずに、私たちの精神の奥にも侵入しているのです。

アメリカの金融仲介会社で、高リターンだがリスクも高い「サブプライム」証券という金融派生商品（デリバティブ）が開発されました。それを世界中に売り裁くことで、ディーラー達は膨大なボーナスを手に入れました。しかし、ひとたび、証券の担保となった住宅価格の上昇（バブル）が崩壊するや、世界中に数百兆円相当の不良債権がばらまかれたのです。世界経済が、危機前の状況にほぼ回復したのは2018年でした。その2年後、今度は新型コロナ・ウイルスの感染拡大で巨大な経済の収縮が起きたのです。

世界経済危機と、新型コロナ危機の原因も影響は、一見、大きく異なります。世界経済危機から脱出する過程で、先進国で大規模な金融緩和が進み、低金利の定着を背景に、財政赤字の膨張は際限のない水準に達しています。そうしたなか、ワクチン開発や経済回復への期待から、投資先を見失った資金が株式市場に流れ込み、資産格差はさらに急拡大する状況です。

新型コロナウイルスの第二波や第三波の感染が襲う中で、「V字型」の経済回復の期待は絶たれました。現在の状況は、「K字型」回復と呼ばれています。それは、持てる者が豊かになり、持たざる者が、持てるものまで奪われる図式にも似ています(マタイ13:12)。

社会のなかに、不安と悲慘が増加していると、いろいろな問題が起きてきます。第1にみられるのは、世界が不安でも、自分だけは満ち足りていたい、自分だけは安心していたいという考え方です。第2にみられるのは、不安や不条理を起こした者の責任を追及する姿勢です。これは、責任を誰かに負わせることで、裏を返せば、自分は正しいと思って安心したいという心理の現れでもあります。

こうした傾向が強まると、社会の分裂はますます深刻になります。それは、隣の村は、戦争で破壊されているのに、こちらの町は、平和な日常の生活が維持されている姿にほかならないのです。

こうした生き方に対し、イエス様が、警告を発しておられます。この世を襲った深刻な事態に対して、見物人や、単なる観察者としてふるまうべきではありません。なぜなら、これらの災難は、全て私たちのために起こったからです。私たちが本来すべきことは、誰かを裁くことではなく、自分も悔い改めることだと言われるのです(ルカ13:1-5)。

しかし現代人は、こうした生き方を、多かれ少なかれ、身に付けていると思います。アフリカや中近東のみならず、欧州やアメリカで起きた出来事も、それが、干ばつであれ、食料危機であれ、テロ事件であれ、内戦や戦争であれ、自分と何も関係がないと思っているのです。誰かを悪者にし、自分は罪など犯しておらず、自分には正義があると思うようになります。

どうして私たちは、そういう愛のない(人を憎む)人間になってしまったのでしょうか。そこで、今日の聖書の箇所を読みましょう。

「愛がないなら、無に等しい。」「愛がないなら、無価値である。」という使徒パウロのことばは、実は、私たちが裁いているのだと気づきませんか。

ところで、「裁くな。裁かれないためである。」というのは、イエス様が語ったことばです(マタイ7:1)。

皆さんが聖書を読んで、あちらこちらに、バラバラな言葉がちりばめられ、場合によっては、それらが相互に矛盾していると感じることも、多いでしょう。

しかし、毎日聖書を読んでいるうちに、それらが、どんどんつながって見えてきて、私たちに、恐ろしいほどに迫ってくるのです。

人類とウイルスの衝突は、歴史のなかで、何度も繰り返されてきました。人間による森林破壊は、現在も、あたかも不可逆的に進んでいます。その結果、人間と動物の棲み分けが困難になり、その動物たちを宿主としていたウイルスが人間に猛威を振るう事態が頻繁に起こるとみられるのです。これも、人間のなせる業です。

自分だけ安心していればそれでいい、誰かに責任を取らせればいいということでは、現実の問題は何も解決しないのです。経済の再生とともに、人間の生き方を転換させるには、私たち自身が「悔い改める」ことが不可欠です。そのことを、聖書は2千年以上も語ってきたのです。私たちに、世界でおきる悲惨や人々の困難を始め、異なる次元のことを、しっかり受け止められる心を与えてください！